



// Navigator //



# モザイクタイル Mosaic tile の散歩道

Vol.1

## レヴェリエ (昭和町)

美濃焼タイルとまちの素敵な出会い。

市内の気になるタイルを紹介するコラム。初回は昭和町の土岐川河畔に立つ「レヴェリエ」に注目しました。現在はレストランの他、英会話教室、多治見輸出陶磁器完成協同組合の事務所が入り、大正時代から昭和初期とされる建物です。外装は、当時流行した二丁掛のスクラッチタイル。浅くランダムな筋と斑紋のある厚手の釉薬は、昭和13年の明治屋栄ビル内装タイルなどを想起させます。

大正時代から「多治見町」では内装の硬質陶器タイルの製造が本格化。加藤重保が同町最初の無釉モザイクタイルを製造しました。それ以前は常滑が主なモザイクタイルの産地だったので、レヴェリエ床面がいずれの製品か気になるところ。レストランのご主人は、かしこまらな温かさに多治見らしさを感じて、この建物を選んだとか。

モザイクタイルミュージアム

学芸員 村山 閑

※本連載では、市内に点在する美濃焼タイルを使った建造物を紹介します